



かわせみ通信

6月号
2024年6月
Vol.178

発行所  株式会社 東海テクノ 本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号(〒510-0023)
TEL.059-332-5122(代) <https://www.tokai-techno.co.jp>

持続可能性社会における自転車の活用 ～モータリゼーションからの脱却と自転車先進国の取組み～

交通体系の大半がグリーンモビリティ（徒歩、自転車、公共交通機関）に置き換わると、街の持続可能性が強化されるという報告がある。グリーンモビリティは資源消費を抑え、排出物質を減らし、騒音レベルを下げ、環境への恩恵をもたらす。また徒歩と自転車が日常の生活に取り入れられると、健康増進にもつながることになる。

日本でも環境負荷軽減、健康増進などの自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成を目的として2021年5月に第2次自転車活用推進計画が閣議決定され、各自治体で様々な取り組みが進められている。世界では欧州の都市を中心に脱炭素社会に向けた取り組みとして自転車利用の促進が進められている。日本では自動車産業が国の大きな柱となっていることや文化や気候及び地形的条件が異なるため、これらの施策をそのまま取り入れることは難しいが、以下の事例にあげるサステナブルな街づくりへの自転車活用の取組みは素晴らしいものがある。

デンマークのコペンハーゲンやオランダのアムステルダムは自転車推進の先進都市として知られているが、コペンハーゲ

ンは「環境に優しい街づくり」という理念のもと、徹底した自転車優遇政策を行っている。例えば信号の運用においては、時速約20kmで走り続けると赤信号で停まらずに進めるよう、信号を自転車優先に調整するグリーン・ウェーブという取り組みや、通勤ラッシュ時間帯には自転車の大集団の接近を感知し、青信号を延長する交差点もある。また自転車信号は車より5秒早く青に変わり、自転車を先行発進させる工夫がされている。さらに、2045年完成目標の都市と地方を結ぶ自転車用スーパーハイウェイ（総延長746km）が完成すれば年間1500トンのCO₂排出量が抑えられるという。



現在、コペンハーゲンでは、自転車が通学・通勤の交通手段の約50%を占めている。アムステルダムでは市民社会を中心に排気ガスによる大気汚染や騒音、駐車による道路の占領といった問題に対する声が上がリ、自転車インフラの整備と並行して自動車を減らす取り組みが進められている。新規建設されるマンションやビルには、車のためだけの専用駐車場が建設できなくなっており、さらに、自動車用道路の道幅を狭めることで、速度を抑制する取り組みを行い、中心部の車道の1/4をなくすという大胆な整備を進め、これらのスペースが自転車道の整備に充てられている。また、オランダやデンマークではほぼ全ての電車で自転車を持ち込む空間が準備されている。

ここに紹介した欧州の2都市以外にも、例えばオーストラリアのアデレード、アメリカのポートランド、コロンビアのボゴタなども自転車に優しい街として知られている。これらの都市の取り組みは、日本においても参考になる部分が多く、サステナブルな街づくりへの自転車の活用の一助となるのではないかなと思う。

能登震災から半年、「防災士」という資格をご存知でしょうか？

当社には2名の防災士が所属しています。それぞれ取得した経緯は異なりますが、皆様に防災士を知っていただきたく、今回は11月に取得した社員のコラムを掲載します。

私はウェザーニュースのYouTube動画で防災士という資格を知り、以前より個人的に活動を行っている自然環境分野と防災には深い関連性を感じ、資格取得を目指しました。きっかけは東北の震災で、魚の調査を通じて自然環境が災害や復興によって大きく変わる様子を目の当たりにしたことです。土日に行われた防災士の講習では、地震だけでなく、ゲリラ豪雨による土砂災害や救命救急（AEDの使い方）など幅広い知識を学びました。資格を得てからは、ボランティア活動にも積極的に参加したいと考えていますが、ただ参加するだけでなく、きちんとした知識を持って臨むことが重要だと感じています。能登半島地震では、災害に対する準備の重要性を認識し、自然災害と復興のバランスを考える視点が広がりました。最近では防災士の活躍の場が広がっており、幅広い年齢層が資格を取得しています。特に企業では安全担当者が資格を取得して、社内の防災意識向上に役立てるケースも増えています。私も地域や職場で防災活動に積極的に参加し、災害に強い社会づくりに貢献していきたいと考えています。（環境事業部 フィールドGr 野口）

東海テクノからのお知らせ 「施設園芸・植物工場展」に出展します

7月24日（水）より3日間、東京ビックサイトで開催される施設園芸・植物工場展（GPEC）に出展します。GPECは、昨今の気候変動や環境変化に対応した次世代の農業技術、施設に特化した国内唯一の専門展示会です。当社はこれまでの環境測定分析の経験・技術を農業支援に活かしたいと取り組んでおり、前回2022年に引き続きの参加となります。今回は植物体分析提案に加え、輸出植物等検査機関登録のご報告、新商材の簡易測定（AnySight）の紹介など更にメニューを増やして皆様のご来場をお待ちしております。（ブース：南2ホールR-35）



社員プチコラム 赤坂 嘉彦（環境事業部 営業グループ）

私は甘いものが大好きです。最近のマイブームはスターバックスのフラペチーノです。今月発売されたストロベリーフラペチーノは疲れた体と暑くなってきた今の季節にピッタリでとても美味しかったです。スタバのコンセプトは「第3の場所」だそうです。1人でも入りやすく、ゆったりとした時間が流れるスタバは私にとって、まさに「第3の場所」と言えます。その他にも甘いものを求めてカフェに行くことにハマっているので、おすすめのお店があればぜひ教えてください。余談ですが、そんな私は糖尿病予備軍です（笑）



編集後記

先日スーパーで右のシリーズのお菓子を見つけました。本社は石川県金沢市のメーカーですが、三重県伊賀市に工場があるようです。「がんばろう能登」のロゴに惹かれて購入しましたが、とても美味しいお菓子でした。これも復興支援のひとつかなと思いました。（みっちー）



社員プチコラム